

「2011年3月期第2四半期決算説明会」主なQ&A

【既存株主・投資家への考え方について】

- Q：新ビジョン発表および公募増資実施により、東京電力は会社の成長に向けて舵を切ったと思いますが、会社としての、既存株主への考え方をあらためてお示しいただきたい。
- A：まず申し上げたいのは、私どもは株主・投資家の皆様について、既存・新規で区別や差別をしていることは全くないということです。2020ビジョンでお示したとおり、守りから攻めの経営へ大胆にパラダイムシフトを図っていくなかで、足下あるいは今後の積極投資に対応した資金調達としての公募増資に踏み切ったという点について、株主・投資家の皆さまにはご理解をいただきたいと考えています。私自身、ビジョンを読み返す度に、その責任の大きさに身が引き締まる思いを日々新たにしています。株主・投資家の皆様のご期待に、結果をお示しすることでお応えしていきたいと考えています。

【成長実現のタイムラインについて】

- Q：公募増資は会社の成長のための資金調達であったとのことですが、一方で、足下の会社の経営環境は依然として厳しさが続いているように感じています。どの程度の期間で成長を実現し、株主・投資家の期待に応えていこうと考えているか、教えてください。
- A：低炭素化投資は、当社の持続的成長に大きく貢献する投資であり、東通1号機および川崎火力に建設中の2号系列第1軸では、通常の火力発電所と比較して相当なコストメリットが期待できます。一方、成長事業投資については、現在最終合意に向けて準備中であるウィートストーンLNGプロジェクトや米国STP原子力発電所増設プロジェクトをはじめとする有望案件の着実な推進によって、なるべく早く具体的な成果を出していきたいと考えています。

【目標に掲げる経営指標について】

- Q：公募増資を行う企業であれば、ROE（株主資本利益率）の数値目標明示によって株主・投資家への説明責任を果たすことがやはり重要だと思いましたが、経営としてROEの目標水準を明示することはできますか。
- A：新ビジョンにおける目標値の議論において、社内にもROA・ROEともに目標値として掲げるべきという意見はもちろんありましたが、収益力、資金創出力、そして財務体質という3つの視点に立って財務戦略を展開するという意味で、ROA、営業キャッシュ・フロー、D/Eレシオ、という3指標を用いることが、バランスが取れていて分かりやすいという結論に達しました。ROEについては、新ビジョンでは目標値としては掲げないものの、常に意識しておくべき指標の一つと考えています。

【今後のIR活動展開について】

- Q：公募増資実施後の今後については、株主・投資家への説明責任が増し、さらなるIRの質の向上が求められることになると思います。IRへのより一層積極的な取り組みが期待さ

れますが、決心のほどをお聞かせください。

A：今回の2020ビジョンや公募増資でうたった、企業としての持続的成長に向けて、株主・投資家の皆様への説明責任をしっかりと果たしていきます。頂戴したご意見や事例を参考にさせていただき、今後ともよりよいIR活動に努めていきたいと考えています。

以 上